

# 人形のお家を中心として

東京女高師附屬幼稚園 菊池ふじの

人形のお家を中心として保育案を立て、見度い、とは兼ねてからの念願でありましたが、今度漸く着手して見ました。

明けて昨年の暮になります。先づ始めに、人形を求めたのでございました。そう澤山でもない、材料費から支出するとしては、かなり高價だったのでございますが、獨りでは淋しいからせめて二人は欲しいと思ひまして、揃へたのでした。今思へば、何も高價なものをおわぎ／＼求めるにも及ばなかつたのでございます。キャラコの布で縫ひ合せてその中に綿をつめ、洋服を着せ帽子を被せ、靴下、靴等を穿かせれば、店で賣つて居ります西洋人形に劣らぬもの、しかも味があり、壊れる心配の無いものが出来上つたのでございましたのに。

人形を揃へましたところ、子供達、とりわけ女の子の悦び様は、とてもお話になりません。男の子までが可愛がつて、代る／＼代り合つては抱つこをしたり、おねんねをさせたりいたします。今まできかん坊で、みんなをかれこれ指圖してゐた女の子等は、一倍お人形が好きで、今まで人を支配して居たのが、その關心の全部を擧げてお人形にそゝぎますので、その氣のつくこと、親切なこと、見て居て涙ぐまれる程で、とても今までに見られない美しい光景を現はしたのでございました。

扱て或日の午後、お歸りの時間も間もない頃私は、組の子供達みんなに向つてかう申しました。「この二人のお人形さんは姉妹で、昨日アメリカから来たはつかりです。お姉さんはメリーさんと云ひ、妹さんはマリーさんと云ふお名

まへです。お友達もまだ出来ませんし、お家ありません。おべも今着てるのだけなのです。ほんとに淋しいのですから、これからはみんなよく遊んで上げませうね。それから不自由なものを男の方も、女の方も、みんなで作つて上げませうね」と、そして「どんなものを作つて上げませう？　みなさんの拵へて上げ度いと思ふものを云つて頂戴。」すると今までお人形さんと遊んでゐて、お布團が無くつちや可愛想、と云つて居た子供達は、いち早く「お布團」と云ひ出しました。それから續いて、お机を、お椅子を、と後から後から細かいものが、いろ／＼出てまゐりましたが、なか／＼こつちの計畫にはまつてくれません。子供達にとつては初耳の計畫なのですから、豫期することちが無理なのです。で私はみんなの後に「先生はね、このお人形さん達のお家を拵へて上げ度いの」と申しますと、「そうだね、お家を拵へて上げるといゝね」と男の兒はすぐ賛成。それから私「そしてね、そのお家に、お窓をつけて、カーテンを下げませう。そのカーテンの模様はみんなを描きませうね。それからお家の床板に敷く敷物も欲しいの、そ

して敷物には、みんなで考へて何かぬひとりをいたしませうね」と云へば眼を輝やかしてきてゐたみんなはコックリとうなづく。それから又、私はつゞける「敷物が出来たら今度は、お人形さんのベットも拵へませう、それからお机もお椅子も作りませう。お家が出来たら今度はお庭の方に、お花畑も作り度いし、温室も作り度いの。それから、お馬も飼ひ度いし、豚も牛も飼ひ度いの。」こゝまで云ふと、子供等の眼はいよ／＼輝いて来る。それから又つゞける、「かうしてメリーさん達のお家が出来たら、今度は、メリーさん達の買物に行く町を作り度いと思ひますね」と子供達の賛成を求めると、みんなは黙つて頭をコックリして賛意を現はす。その町に、どんなお店を作りませうか」と申しますと、今度は子供達は競つて答へる。

「おもちゃ屋」

「お菓屋」

「お薬屋」

「ラヂオ屋」

「お魚屋」

「靴屋」

「紙屋」

「お花屋」

と、なかなか、盡きさうにもない。云へるだけを云はせてポ  
ールドへ列記して見たのでした。町の相談が一互り濟みま  
してから、今度は、「ぢやお人形さんが町へ買物に行く時に  
何に乗つて行きますか？」とききますと、男の兒等、吾  
れ先きに「電車」「自動車と」答へる。「さう、その電車も  
自動車も拵へませう、さういふのは男の方達一生懸命拵へ  
て頂戴ね」と云へば、自信ありげな男の兒等のうなづき。  
「それから、町が出来たら、今度は、町の郊外に、お人形さ  
んの遊びに行く豊島園の様なものを作ります、それから  
池の組でこしらへてゐらした様な水族館も作ります。森  
の組でお作りになつたあの動物園も作ります」と云へ  
ば之にもまた嬉しげなうなづき。

かうして、みんなと話し合つてる中、お歸りの時間がま  
ゐりましたので、語り合ひは之だけにいたしました。翌朝  
早く或るお母様は、お子さんを送つて見えられて、

「昨日、お幼稚園から歸りましたら、子供はあしたまで僕、  
お人形さんの乗る自動車を拵へて行くお約束をしたから、  
お母さん何か箱を頂戴と申します。傍で兄達がいろ／＼く  
さしますので、龍太郎は嫌がり、お母様にだけ手傳つてい  
たゞくと申しまして、昨夜、おそくまでかゝつて作りまし  
た。と仰言つて、果實箱を利用した自動車を下さいました  
のには全く恐縮いたしました。それから同じ朝、も一人のお  
母様、やつぱりお子さんを送つて來られてのお話に「弘基  
は、今朝まゐります時、僕は幼稚園へ行つたら大工さん  
をして、お人形さんのお家を作るんだから、どうしても板を  
持つて行く、と云つてきかないのでございますが、どうい  
ふお話なのでございませうか」との御不審。かうなつては、  
徒らに計畫にのみ耽つて、ぐづ／＼しては居られなくなり  
ましたので、早速に板や柱を取り寄せて、實行に取りかゝ  
つたのでございました。

× × ×

お家は、お人形のお家であると同時に、又子供達のお家  
としても遊べる様にと心掛けてもくろみました。

骨組み、高さ五尺、横四尺、奥行き三、五尺、として骨になる柱を組み立てました。柱を直角に切ると云ふ事はなか／＼六ヶ敷く、こゝがうまく出来ませんでしたため、骨組みが少し曲り、ために出来上つたお家が少しく傾いて居ります。計書の始めは、出来るだけ粗に、おほまかにと考へましたので、無論、かなな等をかける積りはありませんでした。

したが、子供に木を切つてもらつたり、組立てのお手傳ひをしてもらつて居ります中、二三の子供が、手にとげを刺しましたので、たつた柱の組立てにさへ、二三人の刺を見る様では、お家として出来上り、その中で毎日遊んで居る中にはどんなに澤山の子供等がとげを刺す事だらうと思ひますと、やつぱりかななをかけた方がいゝかと思はれましたので、柱も板も私共と子供達とが代り合つてかけました。幾日かの間は、お室の中は丸で、工務所の仕事場の様に、鋸屑や、かなな屑で一杯になりました。初めの中は、鋸を持つ事は持つても、丸で動かせなかつた弱々しさうな子供でも、かうして一週間か、二週間續けて居りました所、驚く程上達いたしましたして、今では一人残らず自由に切つた

り打つたり出来る様になりました。尤も大工の仕事は非常に力が要りますので、その力の續く時間は至つて僅かで、知らない人から見ではなぐさみに一寸いちつて見る程度に思はれる程でございます。こゝの仕事では、柱を切ることに、かななをかける事、釘を打つこと、等を子供達に手傳つてもらひました。

床、柱の組み立てが済みますと、大急ぎで床を張りました。骨組みだけで置く事は、かなりに不安定でしたので。こゝでは床板の長さを私共が測つて線を引き、これを切る事は子供に致させました。釘を打つ事も、子供等がいたしました。

窓、窓は後と兩側の三方につけました。後ろの窓は横一、五尺、縦一、五尺とし、床から一、六尺のところにつけました。この高さは、お家として見ても釣合ひがよく、又子供を立たせて見ても、丁度いゝ鹽梅の高さを求めて定めました。この横の窓に、二枚の開き戸を蝶番で固定させてはめました。戸は硝子をはめた様な形にしようともくろみ、据ゑ付け前に鋸ミシンで窓枠だけ（板が脆いので、枠は割合

に幅廣く)を残して切り取りました。それから兩側の窓、之も床から一、六尺のところにし、横は柱と柱の間全部を開き、縦は一、五尺といたしました。横はやつぱり、硝子のはまる様に窓枠だけを残してくり抜いた戸を二枚蝶番で止めて開き戸といたしました。それから正面玄關の方は左の柱右の柱各々に一尺位の板を打ちつけ、この板に二枚の開き戸を蝶番で留めて玄關の戸といたしました。この玄關の戸には、中央より少し高い所(やはり之も子供が立つて外を見られる位置)に硝子をはめられる様に、梯形の裝飾兼窓と云つた様のもので作りしました。この戸には、ハンドルを兩方につけました。窓は硝子をはめる程の頑丈な戸でもなし、又硝子は危なうございます故、セロハンを張つて見ました。すると子供達は窓が張られた嬉しさに、誰もが一應は觸つて見、その上、とんとんとと打つて見てよろこんで居ります中、あつちが破け、こつちが弛みして、大變に貧弱な姿になつてしまひましたので、このお家に心を止めて下さつた先生方の智慧も拜借して、今度は、人力車の前に張られてあるセルロイドの厚い方のものを、フレイベル館に採

して貰つて之を張りました。今度も亦、子供等は、好奇心からかなり觸つて見たり、たゞいて見たりいたしますが、只今のところ無事でございます。それから子供はよく鍵をかける事が好きだからと思ひまして、どの窓へも、玄關の戸へも、内から鍵をかけられる様に、金具をつけました。こゝの仕事では、窓をくり抜く事も、硝子を張る事も、一寸小細工な、又、安材木だけに、もろくて細心の注意の要る所でしたので、子供達には、戸をはめる時の蝶番のねじ鉋を、止めてもらつた位に過ぎません。でも子供等は、ねじ廻しを使ふのが一寸變つた仕事でしたので、競つて手傳ひ、又、案内上手に、ねじ廻しをまはして止めて居りました。尤も、鉋を止める穴等は、私共が豫め金具に合せてきりで穴をあけて置いたのではございますが。

壁、この家には壁と云ふものはありません。普通、壁である部分は、みんな横に板を張つて壁の代りにいたしました。板の長さを標する事は私共がいたしました。板を切ることに、打ちつける事は子供達でいたしました。一人が釘を打つ、他の二人位は、板を押へて助けて上げる。次ぎに

この人達が代る／＼釘を打つたり、板を押へたりし合ふ嬉しげな顔、見て居る私までがたまらなく、嬉しくなるのでした。

**天井**、お家の安定のためには思つて、後へ後へと天井張りを残して置きましたところ、床板が張られた頃から、天井の無いお家は變だ變だと、子供達が語り合つてゐました。そして私に向つて、早く天井を張つて頂戴、とせがむのでした。こゝは子供達の届かない所ですので、板の切り方だけを子供達に手傳つてもらつて、出來た板を私達で、さつさと張つてしまひました。

かうして一通りの極く雑なお家が出來上りましたが、人形と比べてあんまり隔り過ぎて居りますので、一寸考へさせられました、お人形は綺麗なお洋服を着た、可愛いらしいお人形ですし、お家は片面だけ、かんなかゝつた極くとげ／＼しいお家でしたので、で、お家の外側は何かで塗つて見やう、内側は壁紙を貼らう、と決めまして、塗料や、壁紙の研究にとりかゝつて見ました。

**塗り方**、塗料に就いて何等の豫備知識も持つて居りませ

ず、たか／＼、エナメル、泥繪具位しか知らなかつたのでしたが、この大きなお家をエナメルでは、乾きも悪いし、とてもやりきれないと思ひまして、せい／＼ペンキ位のところに見當をつけて、實際塗料屋について當つて見ましたところ、ペンキも乾きがあまり思ふ様でもなく、又エナメルよりはお安くつきますが、それにしてもなか／＼廉價にと云ふ段にまゐりませず、當惑いたして居りましたところ、塗料屋の申しますに、マンノールと云ふものがあつて、之はぬるま湯で溶いて一二時間も洩らして用ひますと、二時間位ですつかり乾き、色もつかず重寶だと教へてくれました。そしてそれ位の大きさのお家なら、五十錢の袋一つで充分だと申添へてくれましたので、之を一ツ試して見る事にいたしました。マンノールは粉状で、色も種々ありますが、強烈な色のものは無く、みんな胡粉のは入つた様な、やはらかいノーブルな色ばかりです。扱て、どういふ色合にしたらいゝものかと困つて居りました所、「この家は、全く現實味のない、フェアリーの住む様なフアンシアブルなものにするといゝ」と、倉橋先生が仰言つて下さいましたので、

くなりました。

このお言葉にヒントを得、又他の先生方にも見て頂いて、外はクリーム色、窓枠は水色（胡粉のは入った）にいたしました。かうして塗り始めたのでございますが、塗る事は、子供達は大變によろこびました。塗り度い塗りたい、塗らせて、塗らせてと云ふ聲の中にまた、く間に塗れてしまひました。成程二時間も経たない中によく乾き、一見、乾いたあとでも着物につきそうな様子ですけど、ちつともつきません。玄關の戸も、お家の中の天井もクリームで塗りまりました。かうなりましたら今度は、早く壁紙が貼つて見度くなりました。

壁紙、壁紙の見本を取つて、この家にそぐふ様な模様、色合のを選びました。壁紙の實際研究では、紙質、模様、色合の多種多様あること、それよりも、壁紙を貼る前に、下張りをするものと云ふ事を學びました。下張りの紙は、茶色でよく包み紙等に用ひるあの丈夫なのを二重位貼りしました。こゝでは、子供等は下張りを手傳ひ、上張りは、手際を要しますので私共でいたしました。かうなつてまゐりますと今度は、一日も早く、カーテンとカーベットが欲しい

カーテン、布地は、山の組でアルバムに用ひてゐられた、あの生金巾と云ふのが適當と思ひ、之を求めて、之にユーゼンクレヨンで模様を描がせ、濡れ布の上からアイロンをかけて、（大きいものは蒸す。かうすると色もほんたうの色が出てまゐりますし、洗つても落ちません）ほんたうの色を出し、周りにミシンをかけ、かんをつけ、カーテン棒に通して出来上りいたしました。カーテンもカーベットも、このお家にとりかゝつた直後から、とりかゝつて居りました。始めは、何等か子供等の描くものからヒントを得やうとして、「お家のカーテンにしますから、模様を考へて描いて頂戴」と申しまして、カーテン大の模造紙に、男の兒、女の兒共同で描いて見て貰ひましたが、みんな思ひ／＼の繪を描いて、纏りも連絡も見られませんでした。之も子供らしくていゝかとも思ひましたが、その中、いゝ模様を思ひ當りましたので、その繪を見せ、一單位づつを子供等に描いてもらつて、全部のカーテンを描きました。兩側と後ろの窓と三枚のカーテンですので、之を一人残らず執筆い

たしたわけです。海底の、昆布や、わかめ、の繁つてる中を、黄色と赤のお魚が泡をふきく、泳いでる模様です。一番底の岩には、うにが、澤山ついてゐます。

カーベツト、地はズツク。でも生地のみではひき立ちませんので、海の組でいつもしてゐらつしやる様に、澁を塗つて、茶ツぼく、しまつた地色にいたしました。この模様も初めは、子供達の描くものからヒントを得やうとして見ましたが、カーテンの時と同様の有様で、その中また、いつか見た氣に入つた模様を思ひ出しましたので、この事を子供等に話して諒解を求めたのです。繪は、カタツムリが草の中を這つてる繪なのです。毛糸で輪廓を縫ひ出しただけではあまり印象的ではありませんので、草もカタツムリも、草はオリーブ色の布でカタツムリは黄色の布で輪廓を切り取り、之をズツクの上に置いて、その上から、カタツムリは黒色の毛糸で輪廓を縫ひ出し、(兼、布をおさへるわけにもなりますが)草は、布地のオリーブ色で縫ひ出しました。つまり、ズツクの周圍に草を配り、その上を色々形の(子供によつて形が違ひましたので)カタツムリが、

這つてゐる模様なのでございます。こゝの縫ひとりは全部の子供がいたしました。多い人は十回以上、少い人では四五回は針を持つたでせう。かへし針で、草や、カタツムリをおさへたものですから、之をいたしました時は、針の運びと、布をはずさずに抑へるといふ兩方の働きを兼ねなければなりませんので子供達は、かなり緊張した様子でした。一度教へて上げればよく呑み込んで、二針三針目頃からは獨りでどんく縫つて行く子供もあれば、また、幾度教へても、針が進むどころか、見當もつかない方へ飛ぶ様な子もありまして、なか／＼思ふ様にはかどりません。かうして、漸く出来上つた敷物を、釘鋸で、床に打ちつけて止めました。かうして一通り出来ましたお家を、「よくなつたわね、よくなつたわね」と云ひながら、傍らで黙つて見入つてる子供達を相手に、飽かず眺めて居ります所へ、お通りがかりに倉橋先生が、お出で下すつて、「あゝこの家にストープがあるといふな、それから、實際の連絡は無くとも、煙突も立つといふ」と仰言つて下さいましたので、成程と氣がついて、正面後側の窓下に、ストープを拵へま



した。

ストーブ、木で、ファイヤープレースの恰好の枠を作り向側に火の盛に燃へてゐる繪を描いて（破れぬ様、カンレイヤに描く）貼り付け、窓の下にはめ込みました。枠の木は、煉瓦の様に塗りました。石炭入れも、火箸も、十能も子供と私共とで作りました。ストーブを置きましたところ、大變に暖か味が出来て、氣持よくなりました。

煙突、木で作り、煉瓦の様に採色いたしました。之も子供等が喜んで釘を打ち、授色を手傳ひました。煙突の穴からは煙を出しました。（綿を墨で塗つて）

バルコニー、口繪の寫真で見られます様なバルコニーを乗せました。之もクリーム色に塗りました。之が出来ましたところ、子供達は一層珍しさうに、入りかはり立ちかはり眺めて、にこ／＼して居りました。そして、こゝへ昇る梯子があるといふな、と申出て来る人もございます。それから、上はどうなつてるか見せて呉れと、抱つこして貰ひに来る人もあつたり、このバルコニーは子供達には、異様の興味を惹きました。家の恰好も、之が出来たために、大

變によくくなりました。

家具、ベット、お人形を求めますと直ぐ、「おふとんが無くちや」と子供も申しましたので、とりあへずお布團を作りました。お布團は出来上つたのですが、寝かす場所が思ふ様でありませんでしたので、何は無くとも先づベットをと思ひ、お家作りにとりかゝるとすぐ、ベットの製作にもとりかゝつたのでございました。口繪で御覽いたゞけます様な形でございます。プランも鋸ミシンも私ども。釘を打つ事、塗る事をよろこんで子供達がいたしました。色は胡粉のは入つた薄綠色です。お家の中の色の釣合ひを考へて、この色を選びました。お人形が二人ですから二つ拵へました。

椅子、テーブル、椅子は、或る小冊子で見た兎のお椅子にいたしました。板に兎の繪を描き、鋸ミシンでこの繪の通りにひき切ります。この二板の兎を兩臂にし、腰かけと、脊とを切つて適

當の廣さにして打ちつけました。全體の色をクリーム、脊の下方に、緑で草を生やしました。兎の耳の眞中の線と、眼とは、眞赤なエナメルを塗りました。テーブルは、一枚板に、板を十字に組み合した脚をつけた極く簡單なものです。テーブルの上はクリームと緑の染め分け、脚の部に兎の耳を思はせる様な薄緑の模様を染め入れて、お椅子と揃ひにいたしました。

### スタンド

口繪で見えていたぐけます様な形のスタンドを拵へました。クリームと緑の染めわけです。電池を備へて、電球もつけられる様にいたしました。實際に電燈がつくのですから、子供達、とりわけ男の子の悦び様は、たとへ様もありません。あまりの珍しさに、時々スタンドの生存が危ぶまれますので、電池を外づしてかくす事も度々です。この他、ラヂオも、電話もと思ひましたが、家の中が狭くなりましたし、その時もなくてまだ無しで居ります。

ポスト、眞赤な郵便受函も出来て、お玄關の所にかけて

ございます。英語が得意で、いつもアルファベットをポールドへ書いてる子供にレタースと書いて貰ひました。之が大變嬉しくて、時々繪を描いたり、字を書いたりしてこの中に入れて居ります。

只今漸くこゝまで出来上りました。三學期は殆んどこの製作を中心に過してまゐりましたし、又子供達は出来ぬ前から毎日このお家を中心に遊んでまゐりました。

「私は大工でございます。今日はお宅のお窓を打ちつけにまゐりました。」とか「私は左官でございます。お宅の壁を貼りにまゐりました」とか云ふ口上で、お家の中で遊んでる子供達を外へ出して、仕事を進めた事が幾度でございましたでせう。お家の出来上りました今日は、口繪の寫眞の様に男の兒も女の子も、このお家につづけて、おごさを引いたり、お椅子を並べたりして、このお家を中心にして遊んでゐます。お外へ出る事が少くて困る程でございますが、やがてはまた飽きる時も來やうとそのまゝにしてまゐりま

した。他の組の御子さんまでが時々は入つて来ては、「よく出来たね、これバルコニーかい」等と云ひながら前から、後から飽かず眺めてくれる姿を見ますと、たまらなく嬉しく思ひます。或日の午前中は、林の組の方がみんなでこのお家には入り込んで遊んで行く時があります。又或日の午後には海の組の女の方がこの中で遊んで過すと云ふ風で、之を見ますと、ほんとに作りがひがあつたと今更の様に嬉しく思ひます。併し初めの計畫から云へば、まだ、ほんのお人形さんのお家が出来たに過ぎません。之から、前申述べた様にこのお家の花畑、温室、菜畑、庭木、等を入れ、又屋敷の一隅には、馬小舎、豚小屋等をも加へて、柵を廻し、一方に町を作り、動物園を作り、遊園地も加へ水族館も作り度い考です。更に電車も自動車も拵へてほんとに子供が乗つて歩ける様にし度いと思つて居ります。この企ての出来上りますのはおそらく、來年の三学期にもなるかと思はれます。このお家を中心に、之等のものゝ揃つた光景を思ひ浮べますと、嬉しさに胸が躍ります。併し茲で、私が自身にたしなめて居ります事は、作ることの面白さ出来上りの喜び

に、ともすれば、一人としての子供を見逃し勝ちであると云ふ事です。殊にもこの四月からは年長組として、小學校への入學を控へて居ります子供達故、夢々この缺點に陥らぬ様心してこの計畫を進めて行き度いと思つて居ります。之が、とりもなほさず私の本年度に於ける製作上の主な計畫なのでございます。

### 優良農村託児所 朝日新聞社會事業園より 助成金などを贈呈

朝日新聞社會事業園は昭和四年以來地方農漁村の児童保護事業の一として農繁期託児所の普及と發達とを奨励せんがため、府縣當局の推奨にかゝる成績優良なるものに對し助成金並に『慈愛旗』を贈呈したのであるが、最近當局者初め讀者の熱心なる唱道と相まつて著しい普及及び振りを見せ、今や全國においてその數三千余を算ふるに至り、そのうちには常設的に、或は児童保護を中心とする隣保事業にまで手を延ばしてゐるものもある、かくて農家においては能率を高めるのみならず自治、共同、融和の精神が實際的に喚起せられ、もつとも時宜に適當する農村社會事業となつてゐる、本年度から東日本をも加へ、全國各府縣當局並に本社各通信局部の手により精査をとげた結果二百四十九ヶ所を選び表彰狀に添へて助成金と大慈愛旗一流を贈呈すると。